

蘇る三箇小…



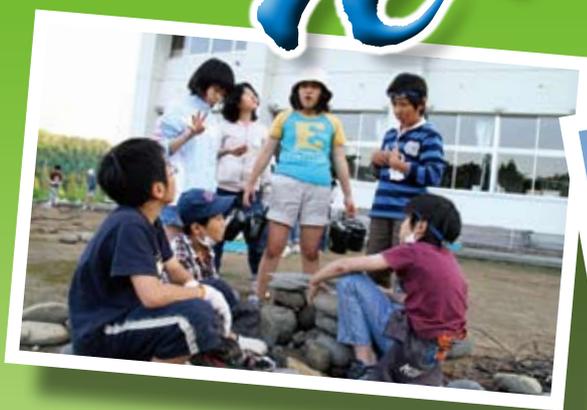
議会だより

つなまち

No.179

TSUNAN-TOWN

2010年8月20日発行



7月定例会 7/21~23

- 上村新町長所信表明…………… ②
- 一般会計・特別会計補正予算…………… ③
- 条例の改正・請願・意見書…………… ④
- 一般質問(13名)…………… ⑤~⑪
- 補欠選挙当選議員の紹介…………… ⑪
- シリーズ 私もひと言…………… ⑫



22年度 一般会計補正予算 (1号)

◎歳出

総務費	90,573千円
民生費	23,473千円
衛生費	2,889千円
労働費	10,254千円
農林水産業費	24,826千円
商工費	18,214千円
土木費	10,000千円
教育費	20,630千円

◎歳入

負担金	5千円
国庫支出金	10,657千円
県支出金	34,547千円
財産収入	110千円
寄付金	87,214千円
繰入金	7,970千円
繰越金	52,447千円
諸収入	△15,091千円
町債	23,000千円

今予算は寄付金8,721万4千円を含む前年度繰越金等に係る大幅な補正予算(2億85万9千円)の増額で総額(59億4,285万9千円)が審議されました。一般会計で参与の報酬予算を削除する予算減額の一部修正案が提出され、賛成9人、反対6人で可決されました。その他は次のとおり補正予算が成立しました。

主な補正の内容

- ◎総務費
 - ・ ニューグリーンピア津南運営支援基金積立金
- ◎民生費
 - ・ 地域介護・福祉空間整備(スプリンクラー)交付金
 - ・ マイクロバス等公用車購入
- ◎労働費
 - ・ 農業研修者受入
- ◎農林水産費
 - ・ へい獣処理施設建設工事
 - ・ 農業産物直売所
- ◎商工費
 - ・ 大地の芸術祭推進費
- ◎土木費
 - ・ 住宅改修補助金
- ◎教育費
 - ・ 中津川運動公園設計委託

特別会計補正予算

国民健康保険会計	補正額	1,000千円
総額		10億84,071千円
老人保険会計	補正額	2,055千円
総額		2,829千円
介護保険会計	補正額	18,516千円
総額		12億77,071千円
簡易水道会計	補正額	665千円
総額		2億16,874千円
下水道事業会計	補正額	5,700千円
総額		3億84,909千円
病院事業会計	補正額	3,842千円
資本的支出計		16,900千円

上村町長所信表明



このたびの町長選挙で町民の皆様の温かいご支援とご厚情により、津南町長の職責を担わせていただくこととなりました。

5期20年の長きにわたり、町政伸長に尽力された小林町長を引継ぎ、伝統に輝き、職見を誇る本議場に立つとき、その責任の重さをひとしお感じているところでございます。

さて、現在の津南町は長引く不況の影響と急

激に進んだ少子高齢化により、活力が失われているように見受けられます。この現状を乗り越え、将来への展望をしっかりと持てる真性自立の津南を目指して、私は議員の皆様を始め町民の皆様と協調しながら「強くてやさしいつなぐ」づくりに向けて職員と共に渾身取り組んで参る決意であります。

まず、「強いつなぐ」づくりであります。域内所得の向上、雇用の確保安定、若者定住の促進を三つの柱として掲げ、政策を構えて参る所存であります。

具体的には、現状津南が持つ可能性を再調査検討し、GDPを押し上げる方を徹底的にリサーチし、その上で最も効率性の高い施策を立案し実行する、これが町づくりの原点であります。

加えてGDPの向上に確実に効果のある公共事業の導入と、観光等、入り込み客の増加には、時を置かず努力をいたします。

更に将来の町内需要に基づいた産業や企業の立地導入を図り、新たなセーフティネット構築により、安定した雇用環境を確保したいと考え

ております。

最良・最大の福祉と言われる、後継者の育成、即ち若者の定住を図るには、魅力ある雇用の場の確保や生活環境の整備は、豪雪・山間という条件不利地域であればこそ、最低限の条件にして、重要な条件であると認識しています。

次に、「やさしいつなぐ」では、医療、子育て支援、教育支援、安心・安全社会の実現の4項目に力を入れたいと思っております。

まず、医療面では、津南病院を維持し、予防医療をさらに進め、健康で長生きできる町にいたします。

子育て支援策として子育て世代応援室を設置し、学童保育や支援センターの充実にも取り組みます。

教育振興では、津南中等教育学校とも連携を図りながら県下一の学力の町を目指します。

安心・安全社会の実現では、インフラ整備による災害に強いまちづくりの推進、協働・共生社会実現とバリアフリー化の推進を図り、高齢者、障害者が安心して暮らせる町をつくり出します。

以上、所信の一端を申し上げましたが、議員各位のご指導、ご鞭撻を切にお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

条例の改正

7月議会で条例改正があった中から、町民の皆さんの暮らし等に関係の深いと思われる主な内容についてお知らせします。

◎津南町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定(専決処分の承認)

◇内容 ①賦課限度額の改正 医療分47万円↓50万円に改正 後期高齢者支援金分12万円↓13万円に改正②非自発的失業者に関する保険料、賦課基礎所得金額の軽減(100分の30) ③旧被扶養者の保険料軽減の延長

▼結果 賛成多数で承認

◎津南町税条例の一部を改正する条例の制定(専決処分の承認)

◇内容 ①個人住民税の扶養控除の見直し(H23: 1.1~) ②65歳

未満の年金所得に係る徴収方法の見直し(H22: 4.1~) ③非課税口座内上場株式等の譲渡に係る町民税の所得計算の特例(H25: 1.1~) ④たばこ税の税率の引き上げ(H22: 10.1~)

▼結果 賛成多数で承認

◎津南町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定

◇内容 法律の題名の変更による改正

▼結果 全員賛成で可決

◎津南町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定

◇内容 ①育児休業等を行うことができる職員の改正②「産後パパ育児」の新設③再度の育児休業等を行うことができる特別の事情の改正④育児休業等の承認の取り消し事由の改正

▼結果 全員賛成で可決

◎津南町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正す

る条例の制定

◇内容 ①超過勤務の制限(免除)の新設②早出遅出勤務等の請求ができる職員の改正

▼結果 全員賛成で可決

◎ニューグリーンピア津南運営支援基金の設置、管理及び処分に関する条例の制定について

◇内容 ニューグリーンピア津南の会長であった故久保善治氏の相続人からニューグリーンピア津南の運営資金としてご寄附をいただき、運営基金として積立してすることになったもの。基金として積立てる額は、8,721万4,924円。

▼結果 賛成多数で可決

請願・意見書

次の請願が提出され、採択した請願については、意見書を国の関係機関へ提出しました。

◎労働者派遣法の早期抜本改正を求める意見書採択の請願

◇内容 深刻な雇用破壊、派遣切りとワーキングプアを生み出した労働法制度の規制緩和等に対し、労働者派遣法の抜本改正を求める請願を提出しました。

◎備蓄米買い入れと米価の回復、安定を求める意見書採択を求める請願

◇内容 「米戸別所得補償モデル事業」の円滑な運営、米の再生産や食料自給率の向上のため、08年産を含む30万トン相当の備蓄米を適正な価格で買い入れることの請願を提出しました。



進むか! パパの育休

草津 進議員

強みを生かして津南町の構築は

町長: GDPの向上が不可欠である

町民所得の向上と雇用の場確保は

問 強くてやさしい津南町づくり構築のため、何から先に取り組んでいくのか。

町長 農林業や観光などの基幹産業と関連する産業の振興を重点的に実施していく。併せて公共事業の積極的な導入により町民所得の向上が図られ、雇用の確保や人口減少の歯止め、少子化対策などの問題解決につながることを考える。

問 津南町全域を廻って一番感じることの思いと福祉医療と子育て教育、安全安心、高齢者の安心、やさしい津南町づくりについて

町長 一番強く感じたことはお年寄りだけの暮らしの家庭がこれだけ増えたのか、それも町中心部での進行が急激である。私にとり衝撃的なものであった。

問 少子高齢化が進むなかで選挙の投票所、現在16ヶ所になったが町民からの要望、町長としての思いは。

町長 選挙戦の時にある山間地域



埼玉県みよし祭りに出店のひとコマ

集落において、痛烈に指摘をされた、高齢化が進んでいくなかで投票所設置の検討の必要性を感じるが、ただ投票所の設置は選挙管理委員会の専権事項である。

副町長、教育長 人事の考え方は

問 町民が最も注目、関心を持っている副町長、教育長人事の提案時期はいつ頃か。

町長 人事というものはすべての組織のなかで最も重要なことである。町の発展というものが図られるような人事を鋭意考えている。行政というものを知らないのか、少しの間何が一番的確なのか、自身学ぶ時間をいただきたい。

津端眞一 議員

公共事業の導入で

町長: 域内産業基盤の向上を

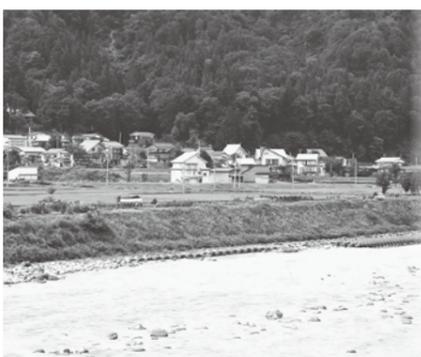
町民の所得向上と公共事業導入は

問 町民の所得向上が最優先だとし、公共事業導入により域内に活力を与えるとの事、その対策を伺う。

町長 公共事業の導入というものが域内の、特に産業基盤の脆弱な私共のような町村のGDPを最も確実に、かつ速効的に押し上げる大きな要因である。平成9年度より、トレンドとして続いている公共事業縮小の中で、当町の事業量は、他の市町村より減少幅は少ない。

観光事業推進と大地の芸術祭への取り組みは

問 観光事業の取り組みについて、ニュー・グリーンピア津南の中国との取り組みと、第5回大地の芸術祭についての進め方を伺う。又、川西地区の北東アジア芸術村との連携はどうか。3年後に行われる芸術祭において、町中心部にも作品展開できないか伺う。



期待したい公共事業

町長 現在ニュー・グリーンピア津南と中国内モンゴルのホテル同士が姉妹提携を、国連事業導入の中で関係者と協議し進めている。県、及び県観光協会からも推進に対し強く協力頂いている。国外からの誘客や交流は影響が大きく、きわめて重要だ。ニュー・グリーンピア津南と北東中国とのあり方は重く受けとめ、積極的に考えた。芸術祭については、十日町市と比べもう一歩である。津南にある作品は豪華であり圧倒される。又町中心部への作品展開により町中心部の活性化との提案に、大賛成である。

栗原 洋子 議員

子宮頸がん、肺炎球菌ワクチン助成を

町長：国の制度化を要望、町も検討する

子宮頸がん予防ワクチンに公費助成を

問 県内自治体でもワクチンへの助成が広がっている。ワクチンで防げる唯一のがん。1人4〜5万円かかる費用を町で全額助成して頂きたい。次世代を担う子供達が安心して生み育てられる様、予防医療の点からも積極的に取り組んで頂きたいがいかがか。

町長 子宮頸がんワクチンは昨年販売が許可され、まだ取り組んでいる自治体は少ない。国が積極的に取り組むべきもの。制度の見直しを検討しつつある。母性保護をはじめ子育て支援の観点から国に対し強く要望し、当町でも検診と合わせて総合的に検討してまいりたい。

高齢者に対する肺炎球菌ワクチンに公費助成を

問 死因の4番目が肺炎、年間8万人に達する。予防医療、健康長寿を目指す町として現在自己負担であるワクチン接種に対し全額

助成を。

町長 健康寿命というものが日本一と標榜する町づくりの取り組みの一環として、検討してまいりたい。

福祉保健課長

できるだけ多くの方が接種できるように実施に向け慎重に検討、対応していき



高齢者にやさしい医療を

住宅リフォーム助成事業について

問 今回補正予算を組んで頂いた。来年以降も事業の継続、県にも要望して頂きたい。

町長 8月1日からの実施を目指したい。県への要望も積極的に取り組みたい。
建設課長 経済情勢を見ながら県にも働きかけていく。

参加率とこの制度に対する評価は

問 戸別所得補償モデル事業の参加申請が6月末をもって締め切られた。この事業に対し町長はどのようなお考えか。

町長 戸別所得補償の補償額が米だけで5千億円と推測。一般農作物が入ると、単年度で1兆円を超える補償額も見込まれ、日本の財政の中でいつまで続けられるか、確信を持っていない部分も持っているが、農家に補償の道筋をつけた点については、高く評価している。ただ、水田の3分の1を転作する中で、転作部分の補償水準が十分できていない。転作による所得補償は極めて曖昧であると思っている。

町長 転作達成率で75%あまり、戸別補償モデルへの参加は800戸程度、参加率で55%程度の見通しである。我が町の稲作に対しての特性を考えると、こうした判断をしたことはうなずける。

販売を伸ばすことが重要課題

町長：転作部分の補償水準が十分でない

戸別所得補償モデル事業の成果は

河田 強一 議員

今までの品質向上と組織化等によるコスト削減を図らなければならぬ。需要拡大策を講ずることが緊急課題であると思



転作田大豆で所得補償なるか

農業・観光振興の具体策は

問 選挙期間中、域内所得の向上が町にとって最も重要であると訴えてきたが、今後どの様に進めていくのか。

町長 高付加価値型の農業を営むといった観点から、津南町認証農産物という認証制度というものを熱意を持って取り組みたいと考えている。

観光振興は複合的な魅力を組み合わせて企画し、セット販売ができる旅行企画を販売していくなど、行政として取り組んでいきたい。

配食サービス拡充とは

町長：町内事業者をバランスよく活用

現在実施の配食との違いは

問 高齢者単独世帯への配食サービス拡充とはどのような考えか、また、現在実施配食との違いは。

町長 町内に多くの高齢者、〇〇〇世帯一、四〇〇〇人が暮らしている。食事を安心して得る事はとても大きな事。バランスの取れた栄養の摂取、町内には配食サービス提供事業者がいくつかある。バランスよく活用しながら、高齢者の嗜好にあった実態に即した食材や味付け、調理の方法等栄養バランスを総合的に勘案した中の配食サービスを考えている。配食のみにとどまらず、安否確認や防災上の危機管理などでもできるようにしながら、アンケート調査、高齢者のニーズに答えられるかどうか検討し、将来的には、県の事業、国の事業として視野に入れていく。現在の配食サービスより高度な食事サービスを考えている。



栄養バランスの取れた弁当

県から国直轄にできるか

問 河川管理者はいつ頃県から国直轄河川として管理が異動すると考えるか。

町長 県管理であっても安全というものが確保されるのであれば、国直轄でなくてもよい。目的は安全で安心できる堤防を築いていただくことが必要なことである。

公約の具体的な実現方策はあるのか

問 町長は即戦力をアピールしてきた。しかし今は行政は初体験で素人であると言う。町長の即戦力とはなんなのか伺います。

町長 私は選挙期間中自ら即戦力と思った事もなければ、自分を評してそのような恥ずかしい言葉で自己を評した事は1回たりともございません。

問 町民所得向上、強い津南を作りたい、それは誰もが思っている事です。町長の具体的な実現方法を伺います。

町長

津南のGDPを向上させた。まず調査をして、具体策を考えたい。



外国に踊らされるな日本農業

公人としての町長の倫理観は

問 津南の顔、町長としての倫理観を伺います。また、事件の解明は。

町長 議会は個人のスキャンダルを議論する場ではない。後援会で調査している。私は一切関与していない。

新町長の具体的な公約実現策は

町長：行政は初体験素人である

大平 謙一 議員

また今までのセーフティネットは商工業だけのものだった。今年度産米の販売価格がどのように推移するか注視している。米価が来年度再生産価格を維持できるかどうかの流れの中で来年度の米価はどうなるのか。県の予測などでは3〜4年間は米価は下がる。来年度産米の所得が再生産費をどう保持できるか、津南という豪雪山間地域では米に代わる作物を見つける事は難しい。そうした作物の再生産を補償するような形での農業分野における融資制度の確立を9月から10月までに構築したい。県の保証協会と入念な協議をしている。

大口 武議員

「又輸入自由化反対言」はどうか

町長：自由化には強く反対する

日米FTA・日豪EPAについてどう思うか

町長 「反対宣言」と「農を以って立町の基と為す」の町是を継承するか。

町長 コメは日本人の主食であり、文化と伝統の根源である。100%の自給率で政策を進めるべきで、ミニマム・アクセス米も含め強く強く反対する。「町是」はしっかりと継承する所存である。農産物の輸入拡大につながるような「日豪EPA（経済連携協定）」の推進には断固として反対する。

町長 ミニマム・アクセス米輸入中止やFTA・EPA推進反対の声を国県に迫りたい。

町長 農業立町を標榜する町長としてどのようにしたら良いか考え、伝えたい。

「核兵器廃絶、平和の町宣言」と平和運動について

町長 核兵器廃絶を目指す第53回国民大行進の行進団が6月29日津南町を訪問し、前町長、議長と懇



広島平和記念式典2010に参加した派遣団の皆さん

談し募金など協力された。町長からも「核兵器の無い世界を」の町民の願いに応え、平和宣言の町をリードされたい。

町長 平和への町行政のあり方を高く評価している。イデオロギーを超えた国民大行進に協力したいと考えている。

町長 自立について、また道州制についてどう思うか。

町長 今は自律の選択を高く評価し、今後もスモールメリットを生かし強くやさしい町を作りたいと決意している。道州制は単なる数合わせ。現在の合併論議には賛同する考えはない。町村会の反対決議と同じ考えである。



いつごろ食べられるのかな？飯合炊飯

都会との交流に活用するコミュニティ

町長 自然とのふれあいや農業体験学習等に活用することで三箇地区活性化推進協議会の核とし、都会との交流を積極的に進めたいと考えているが、町はどのような支援を考えているか。

町長 今後、役場庁舎内にプロジェクトチームを立ち上げて、地域住民と連携を図りながら活用する方法や経費のあり方について積極的に検討する。

町長：町も協力をしなければならぬ

日三箇小学校の活用について

恩田 稔議員

町長 補助金の絡みの中でどんな活用ができるか、国と交渉する。その前提として、地域住民とのコンセンサスを高めていく。

町長 町税等の滞納について滞納が増えることで公平性の確保が損なわれると考えられるが。

町長 町税の確保は町政執行の根幹を成すものであり未然防止や納税の意識高揚を図る。

町長 滞納者の中には、生活に困窮している人もいると思われるが、納税制度等で、きめ細かな対応をしている。また悪質な滞納が確認できれば、県と市町村による徴収機構との連携を図り対応する。

公共住宅の整備について

町長 町営住宅の修繕及び耐震工事などの計画は

町長 必要な修繕は適宜実施していかねばならないが全体としては長寿命化計画を策定する中で耐震工事も含めて検討する。原因不明のものも再調査し対応を図りたい。

藤ノ木浩子議員

津南病院の維持、存続を

町長：町民の医療、安全、安心を断固守る

病院の再編、縮小求めるガイドライン

町長 ガイドラインの基本的な考え方は、維持可能な公立病院を築き上げることであると認識している。経営の効率化では、常勤医師の確保を図り、給与費の削減に取り組む。ネットワーク化では、十日町病院からの医師派遣の拡大に努力し、診療科を確保したい。経営形態は現状を維持し、必要な改革の検討も行う。

町長 病院は診療報酬の引き下げや地方交付税削減、医師不足などで厳しい財政運営だ。さらにガイドラインは、病院の再編、縮小、廃止を推進する自治体病院つぶしではないか。

町長 自治体病院つぶしが我が国に存在すると考えてない。医療費を少しでも抑制する考えはあっても当然。ただし医療サービスは低下は反対だ。

町長 病院は一般会計からお金を繰り入れて守られている。今後も町民の宝を守る強い意志があるか。

町長 町民の医療、安全、安心を断固守る。

町長 国保の国庫負担割合を元に戻せ

町長 国保会計の歳出に占める国庫負担割合はほとんど減らされ、08年26・3%だ。元に戻すことが健全な国保運営の道だ。

町長 福祉保健課長 S59年、H20年の医療改正で国庫負担は減っているが、公費負担の2分の1は守られている。国保は低所得者層が多く、社会構造の変化に連動した支援策が必要だ。



子どもは国の宝、より良い制度を

中山 弘議員

自然の恵みと環境を大切にしたい

町長：共存共栄し、体験も大事である

信濃川の生物保護や水利権更新に対し町の取り組みは

町長 宮中ダムのJR東日本の違法取水や魚道は上流域に多大な影響を及ぼしている。町の取り組みは、また西大滝ダムの影響は更に大きく、過去70年余りで水生植物・魚類・甲殻類に悪影響を及ぼし、死の川になってしまった。水利権の更新は今年であるが津南町はどのように対処するのか。

町長 JR東日本の違法取水は、あるまじきことで報告データの改ざんは言語道断である。東京電力の西大滝ダムによる津南町の影響（生態系）は無いとは言えないが志久見川等の支流があるため影響は少ないと感じる。河川維持流量は信濃川中流域水環境改善検討協議会の提言内容が参酌された申請及び許可になるものと考えており、的確に対応してゆく。

鳥獣との共生はいかに

町長 熊による農産物の被害は多く、農家の悩みの種である。被害



急がれる魚道整備

町長 自然と人間の共生を踏まえて保護管理、被害防護対策を総合的に取り組む必要がある。適正な保護管理の体制を確立していただく事を県に要望すると共に、町としても保護と共生について取り組んでいく。

町長 中央商店街の景観と活性化は。町長 活性化策として中心街でのイベント導入や電柱埋設での空間活用も大事だ。交通量の多い地域優先だが、豪雪地域の埋設は要望している。



評価の高い津南農産物

主要農産物に対する 再生への道筋を問う

問 過去20年間の農業投資額はおよそ800億円、年間販売額は50億円前後、次に掲げる主要農産物への取組みを伺う。
(1)稲作(2)アスパラガス、にんじん、スイートコーン、キャベツ等一般野菜について(3)葉たばこについて
町長 稲作においては日本一の評価を得ているが、より一層食味にこだわった食味ランクにより区分集荷を進めていきたい。津南野菜

津南農業の再生施策を問う

滝沢茂光議員

町長：津南町認証農産物制度を導入し対応

については、品質・食味の点からも高い評価をいただいております。さらに高い品質・食味にこだわった津南町認証農産物制度を設け積極的に対応していきたい。

問 品質と食味は津南特有の気候風土、水環境によるところが大きく、又たい肥の投入が欠かせないが、高齢化も進み地力増進が難しくなっている。個人に対しても散布を請け負う仕組みが求められているので対応できないか。
地域振興課長 各生産組織に対し助成は行っているが、個人に対してもできる限り対応を考えていきたい。

庁舎内全館禁煙、喫煙禁止は行き過ぎではないか

問 本町は葉たばこ生産も重要作物として位置付けられ、又たばこ税も多額にいただいている。喫煙室の完全分離で対応できないか。
町長 現状では受動喫煙の防止が強く求められており、全館禁煙に御理解をいただきたい。

大島知美議員

なぜ寄付先が町なのか

町長：故久保氏の遺言である

寄付処理による 町口座の安全は

問 平成17年、雇用の確保と津南の顔として約2億円で購入したグリーンピア津南であるが、運営会社社長が急逝され会社の全株式、その他が相続により町に寄付されたと聞くがその内容は。
町長 故・久保氏の遺言により遺贈資産の寄付内容は会社の全株式(額面9,950万円)と現金8,721万円余、運営会社に対する貸付債権1億1,727万円余が会長の遺言で町に寄付された。
問 なぜ寄付先が運営会社でなく町なのか。
町長 久保氏の意思は町に寄付することにより、ニューグリーンピア津南を育てていただきたいというものであると記憶している。また租税特別措置法により相続税の軽減も図ることが狙いと推測する。
問 放棄や譲渡をすぐやるのは相続税法違反にならないか。
町長 そのような事があるとは思っていない。

問 相続税法逃れではないかと、とられる可能性があり、町の口座をそのような危険にさらすのはいかがか。
総務課長 相続人の弁護士、会社の税理士が違法でないことを確認した。
問 町に寄付ではなく会社に贈与でもいいのではないかと、とられないか。
町長 ニューグリーンピア津南を育てる面で町としても、この方法が一番いいと判断し受け入れた。



みんなで行こうニュー・グリーンピア

藤木正喜議員

医療・子育て支援・安心・安全の言葉が

町長：少子化の重要性は承知している

津南病院への補助金 が高額だが

問 抽象論的な所信表明であるが、もう少し具体的な施策はないのか。安心安全確保のために津南病院への3.5億円の補助金は妥当か。また子育て支援など踏み込んだ施策は。
町長 津南病院への補助金は国からの自治体病院への交付金があるが、ほかに町民1人あたり1万円内外の拠出は医療の安心安全のため必要である。保育料の無料化については少子化の中の重要性は承知しているが、無料化する事は考えていない。

公共事業依存だけで よいのか

問 国、県の公共事業費が大幅に減額されているなか、公共事業で一時的なGDP(町内総生産額)を上げる施策は10年、20年前のやり方ではないか。今後は環境事業やカーボンオフセットなどと連動した公共事業が必要ではないか。



GDPの押し上げにサービス産業が一番貢献、電神の館で。

4名の議員が新たに 加わりました

4月11日に行われた町議会議員補欠選挙により、次の4名が当選されました。(議席番号順)



恩田 稔 (鹿渡) 所属 産業建設常任委員会



津端 眞一 (上野) 所属 総文福祉常任委員会



中山 弘 (大割野) 所属 産業建設常任委員会



栗原 洋子 (米原) 所属 総文福祉常任委員会 広報特別委員会

新潟県議会議長会表彰を 受けられました

3名の各議員が10年の長きに渡り地方自治の進展のために尽力された功績を認められ、県の議長会より自治功労者表彰を受けられました。



河田強一議員



大平謙一議員



藤ノ木浩子議員



旧三箇小学校での宿泊体験

横浜国立大学付属鎌倉小学校教諭 木村光男 さん

旧三箇小学校を活用して、3泊4日の体験学習を2回実施させていただきました。今回は5、6年生79名の児童が参加しました。

目的は、何をするのも自分と仲間だけで生活することです。

参加児童の日常実態が、協力して目的をやり遂げる経験が非常に少ない状況だったからです。三箇小での生活は、薪拾いに始まり食事の用意、片付け、掃除に至るまで、子供たちが自主的に考え協力をしながら、生活をしました。地域の方々の協力を得て、田植えや芋植え等を体験させて頂きました。これは秋の実施に向けた取り組みとして発展させたいと検討しております。宿

泊学習の効果は日常の生活や仲間との関係を見直す生活態度の変容を促したことです。帰校後に書いた樋山まみさんの作文です。

『私は津南の生活で、大切にしたいことを見つけました。それは友達を助けたい、と(う)ことです。今までは困っている人がいても、見てみぬふりをしていました。しかし、津南の生活では、友達がいなければ楽しいことも楽しくないと実感しました。だから、私はこれから友達を大切にします。』

今後は地域の方々と鎌倉の子供たちとの交流を積極的に進めてまいりたいと考えております。ご理解とご支援を賜りたく、お願い申し上げます。



私たちに出来ること

割野 小林幸一 さん

平成18年豪雪、その風評被害に負けず、地域をPRしようと結成した「G O雪共共和国」は中央区日本橋や鎌倉市、そして台湾まで雪を運んで独自の交流を重ねてまいりました。

なかでも日本橋の城東小学校と鎌倉市の横浜国立大学付属鎌倉小学校とは、夏と冬に津南や秋山郷などで課外活動を行っております。また、昨年から津南の廃校を活用した地域交流事業として旧津南原保育園や旧三箇小学校をお借りして地域の皆さまと交流を始めました。

サマーキャンプの人気メニューは川遊びです。そしてひまわり畑やトウモロコシの収穫など、夏の津南は楽しい

体験がいっぱいあります。また、冬の体験は、スノーシューを履いて山を歩きや、雪上運動会など、これまた様々な体験が用意できます。

どういった体験が喜ばれるか？少しでも体験させて、いかにも体験をしたようなメニューより、もっと自然の中で苦勞をさせることが求められております。子供たちが大きくなったら、また津南に来たくなくなるような、心に残る交流を続けていきたいと思っております。

編集後記

今回、議会だよりの表紙を飾っていただいたのは、今年3月閉校になりました、三箇小学校の空き校舎を利用した三箇地区の取り組みを「蘇る三箇小」と題してご紹介させていただきました。又「私のひと言」では、鎌倉小の木村先生より子どもたちと三箇地区の人たちとの交流を投稿していただきました。

もうひとつ方は、中央区の城東小学校が旧三箇小を宿泊場所とした交流を受け入れ側より投稿していただきました。

津南町版のグリーンツーリズムがスタートしております。この取り組みが発展し、人と人との交流になり、さらに三箇の物産交流、津南の生産や販売の企業化になり、津南への定住や若者定着につながる。このような取り組みが津南にとって一番地に足がついている取り組みに思われます。皆さん、これは夢でしょうか。心より応援しさらなる発展を願う1人です。(知)



川遊びはスタッフの確保が課題です。